

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分  
 【発行日】令和 5 年 11 月 6 日(2023.11.6)

【公開番号】特開 2022-28280(P2022-28280A)  
 【公開日】令和 4 年 2 月 16 日(2022.2.16)  
 【年通号数】公開公報(特許)2022-028  
 【出願番号】特願 2020-131597(P2020-131597)  
 【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02(2006.01)

G 0 6 Q 50/10(2012.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

A 6 3 F 7/02 3 1 5 A

G 0 6 Q 50/10

10

【手続補正書】

【提出日】令和 5 年 10 月 26 日(2023.10.26)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

20

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

始動条件が成立したことにもつて装飾識別情報の可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

非特別状態と該非特別状態よりも前記始動条件が成立しやすい特別状態とに制御可能な状態制御手段と、

前記有利状態に制御することを決定可能な決定手段と、

30

前記有利状態に制御されることを示唆する示唆演出を含む演出を実行可能な演出実行手段と、

を備え、

可変表示の態様がリーチ態様となった後に特定リーチ演出が実行される特定可変表示パターンを含み、

前記特別状態は、前記非特別状態から制御された前記有利状態が終了したときに制御される第 1 特別状態と、所定回数の可変表示が実行されたときに制御される第 2 特別状態と、を含み、

前記演出実行手段は、

前記決定手段の決定結果にもつて、第 1 示唆演出と、該第 1 示唆演出が実行された場合よりも前記有利状態に制御される割合が高い第 2 示唆演出と、を含む複数種類の前記示唆演出を、可変表示の態様がリーチ態様となる前において実行可能であり、

40

前記装飾識別情報の可変表示の停止順序を、前記第 1 特別状態において前記決定手段によって前記有利状態に制御することが決定されない可変表示において前記装飾識別情報の可変表示の態様が特定態様とならずに非特定表示結果が表示される場合と、前記第 2 特別状態において前記決定手段によって前記有利状態に制御することが決定されない可変表示において前記装飾識別情報の可変表示の態様が特定態様とならずに非特定表示結果が表示される場合と、で異ならせることが可能であり、

遊技者が前記第 2 特別状態に制御されるまでの期間を認識可能となる期間表示演出を実行可能であり、

50

前記第 1 特別状態における 1 の可変表示あたりの前記示唆演出の実行割合よりも、前記第 2 特別状態における 1 の可変表示あたりの前記示唆演出の実行割合が低い、ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

(A) 請求項 1 に記載の遊技機は、

10

始動条件が成立したことにともづいて装飾識別情報の可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

非特別状態と該非特別状態よりも前記始動条件が成立しやすい特別状態とに制御可能な状態制御手段と、

前記有利状態に制御することを決定可能な決定手段と、

前記有利状態に制御されることを示唆する示唆演出を含む演出を実行可能な演出実行手段と、

を備え、

可変表示の態様がリーチ態様となった後に特定リーチ演出が実行される特定可変表示パターンを含み、

20

前記特別状態は、前記非特別状態から制御された前記有利状態が終了したときに制御される第 1 特別状態と、所定回数の可変表示が実行されたときに制御される第 2 特別状態と、を含み、

前記演出実行手段は、

前記決定手段の決定結果にもとづいて、第 1 示唆演出と、該第 1 示唆演出が実行された場合よりも前記有利状態に制御される割合が高い第 2 示唆演出と、を含む複数種類の前記示唆演出を、可変表示の態様がリーチ態様となる前において実行可能であり、

前記装飾識別情報の可変表示の停止順序を、前記第 1 特別状態において前記決定手段によって前記有利状態に制御することが決定されない可変表示において前記装飾識別情報の可変表示の態様が特定態様とならずに非特定表示結果が表示される場合と、前記第 2 特別状態において前記決定手段によって前記有利状態に制御することが決定されない可変表示において前記装飾識別情報の可変表示の態様が特定態様とならずに非特定表示結果が表示される場合と、で異ならせることが可能であり、

30

遊技者が前記第 2 特別状態に制御されるまでの期間を認識可能となる期間表示演出を実行可能であり、

前記第 1 特別状態における 1 の可変表示あたりの前記示唆演出の実行割合よりも、前記第 2 特別状態における 1 の可変表示あたりの前記示唆演出の実行割合が低い、

ことを特徴とする。

さらに、請求項 1 に記載の遊技機は、

始動条件が成立したことにともづいて識別情報の可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

40

非特別状態と該非特別状態よりも前記始動条件が成立しやすい特別状態とに制御可能な状態制御手段と、

識別情報の可変表示に関する情報を保留記憶として記憶可能な保留記憶手段と、

前記有利状態に制御することを決定可能な決定手段と、

遊技に関する情報を送信可能な情報送信手段と、

前記情報送信手段から受信した情報に基づいて、前記保留記憶手段に記憶されている保留記憶について前記有利状態に制御されることを示唆する先読み予告演出を含む演出を実行可能な演出実行手段と、

を備え、

50

前記特別状態は、前記非特別状態から制御された前記有利状態が終了したときに制御される第1特別状態と、所定回数の可変表示が実行されたことを条件に制御される第2特別状態と、を含み、

前記演出実行手段は、複数種類の先読み予告演出パターンのうちから1の先読み予告演出パターンを決定可能であり、

前記決定手段によって前記有利状態に制御することが決定されない可変表示である場合に前記演出実行手段が前記第2特別状態において決定可能な先読み予告演出パターンの数は、前記第1特別状態において決定可能な先読み予告演出パターンの数よりも少なく、

前記第2特別状態において前記決定手段によって前記有利状態に制御することが決定されない可変表示である場合に前記先読み予告演出が実行される割合は、前記第1特別状態において前記決定手段によって前記有利状態に制御することが決定されない可変表示である場合に前記先読み予告演出が実行される割合よりも低い、

10

ことを特徴としている。

この特徴によれば、所定回数の可変表示を経て制御された第2特別状態では、有利状態に制御されない期間が長く続いたことを考慮して、有利状態に制御することが決定されない可変表示では、先読み予告演出パターンの数が少ないことで開発コストを抑制できるとともに、先読み予告演出によりいたずらに煽られることが少ないので、好適な第2特別状態を提供することができる。

20

30

40

50